

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学校の教育目標

- 1 生徒一人一人が主体的に学習に取り組むための授業改善を進め、基礎学力の向上を図る。
2 キャリア教育の充実と進路先の開拓を推進し、全ての生徒の進路決定を図る。
3 基本的な生活習慣を身に付け「18歳成人」社会に対応した行動がとれることを目指して生徒の自立を支援していく。
4 キャリアパスポートを活用して学校行事における生徒の達成感や成就感を養う。特別活動全般の参加の機会を増やし、内容の充実を図る。
5 生活体験や社会体験を通して、社会の変化に適切に対応できる力を育成する。
6 地域への働きかけを充実させ、地域に支えられる学校、地域を支える人材を育てる学校を目指す。
7 効率的な業務の遂行と労働時間の短縮を目指し、労働の質を高める。
8 通級指導実施のための校内体制の強化と、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解促進と指導法の向上。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会に関わる総合的な学習を行い、自己の在り方生き方を考えながら、自発的・主体的に課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

総合的な探究の時間の学習評価

- 1 体験学習や調べ学習におけるワークシート等への、必要事項の記入内容を評価の対象とする。
2 体験学習や調べ学習をもとにした発表を評価の対象とする。
3 課題を発見する過程の振り返りシートの記入内容を評価の対象とする。
4 体験活動において、活動に参加し協働的に取り組む姿勢を評価の対象とする。

生徒の実態

社会性、コミュニケーション力の向上を図り、規範意識と自主性を育む教育が必要である。また、地域・家庭との連携・協力による教育が必要である。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

特別な教育的支援を必要とする生徒のニーズに応じた通級指導のもと、「できた」、「わかった」を積み重ね、自己肯定感を高める。

目指す生徒の姿

規則正しい生活習慣を身に付け、他者と協働し、自ら地域に貢献する態度を養い、達成感や成就感を体感できる態度の醸成

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

●1学年

I 世の中の動きを知る～世界と自分のつながり～

- (1) 身近な題材を通し、社会情勢に興味関心を持つ。
(2) 世界に目を向けて、「今、何が問題になっているのか」を発見する力を身につける。
(3) 世界とのつながりを意識し、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする。

II 介護福祉～高齢者福祉の現状把握と共生～

- (1) 高齢者の暮らしをよりよくするために、介護現場でなされている支援の工夫を理解する。
(2) 介護現場での工夫をふまえ、自分たちがどのような実践・工夫ができるか協働して取り組む。
(3) 異なる多様な意見を尊重しつつ、他者に意見を伝え、相互理解を深める。

III 地域の産業と自己の進路～地域産業の現状と展望～

- (1) 上級学校や企業の訪問をおして、進学と就職の違いや地域の産業に対する理解を深める。
(2) 興味のある職業について多様な情報を分析し今後の進路選択に生かすとともに、グループにおいて発表できる。
(3) 自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする。

●2学年

I 働くことの意味や価値～地域の産業と自分たちとの関わり～

- (1) 多岐にわたる進路について、それぞれの違いや個別のよさを理解する。
(2) インターンシップを通して、社会や地域の多様なあり方をふれ、よりよい地域形成に向けて、自己がいかに貢献できるか、検討しまとめる。
(3) 自己の生き方あり方を考え、進路実現に向けて取り組もうとする。

II 社会的責任～地域との関わりと地域貢献のあり方～

- (1) 地域社会に密着して活動する企業や人々について地理・歴史を含む社会的背景と関連付けて理解する。
(2) 課題における事実や関係を把握し、実際の経験と関連付けて得られた情報を整理・分析することができる。
(3) 主体的に探究活動を進めようとする態度が身に付いている。

III 進路選択と進路実現～マイライフプランの作成～

- (1) 各職業の役割や意義について地理・歴史・社会的背景と関連付けて総合的な理解ができる。
(2) インターンシップを通して興味をもった職業について、多様な情報を分析し今後の進路選択にいかすことができる。
(3) インターンシップを通して自己を見つめ、自分の個性や適性、特徴に向き合おうとする。

●3学年

I 自己の適性と能力～実社会で働くことの意味と必要な技術や能力～

- (1) 個性について理解し、自己の適性や能力に気づく。
(2) 実社会で働くことについて自分なりの考えを整理するとともに、自分にふさわしい進路先と関連付けることができる。
(3) 進路実現に向けて前向きに取り組む態度が身に付いている。

II 進路選択・進路実現～社会貢献や地域貢献のあり方～

- (1) 未来の自分を思い描き、進路実現に必要な情報を収集し整理することができる。
(2) 社会貢献や地域貢献と関連付けて自己の生き方あり方を模索することができる。
(3) 進路実現に向けた決意と覚悟をもち主体的に取り組む態度を身に付ける。

III 社会人として求められる資質や能力～地域に貢献できる人財となるために～

- (1) 講話及び体験活動をおして着こなし、マナーを身に付ける。
(2) 体験したことをもとに、服装、食事について掘り下げるとともに求められる社会人像についてグループとしての意見を発表できる。
(3) 未来の自分をイメージしながら探究を進める態度を身に付けている。

学習活動、指導方法等

●学習活動

- 1 1学年は福祉について、介護福祉体験を中心とした活動をする。
2 2学年は進路について、上級学校・企業訪問やインターンシップを中心とした活動をする。
3 3学年は自分の進路について、進路講演会や面接練習など実践的な内容を中心として活動する。

●指導方法

- 1 事前学習では、高齢者の暮らしについて調べたり話を聞いたりすることで体験学習をよりよいものにするための支援をする。
2 施設との事前の打ち合わせを行うことで、当日だけでなく準備期間にも体験に向けた学習を行う。
3 介護福祉の知識や礼状、電話での対応などを他教科と連携して学習する。
4 他者の考えや進路について調べた内容をもとに、進路に応じた講演会を実施することで、自分に合った内容を選択できる活動を行う。また、事後の情報交換で他者の考えや体験を知り、自らの進路に生かす。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- 「総合的な探究の時間」校内委員会や各学年との連携
● 校内研修の実施
● 介護福祉体験の実施－地域の介護福祉施設との連携
● インターンシップの実施－地域の事業所との連携